

日刊 動労千葉

80.9.27

No. 543

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八〇九・公衆電話(22)七二〇七

「反ファシズム統一戦線」なるものの反動性!

新たな「反共略運動」

動労型労働運動の破産を「日共との野合」で延命をはかることとする「本部」反動分子

「日刊」第五三二号、五三六号に続いて、本号は標題の暴露と断罪を行っていききたいと思います。

問五 第三六回(名古屋)大会で、日本共産党の代表を招いて挨拶させるなど、唐突な方針が出され、職場では、これはおかしいんじゃないかと話題でもちきりですが、三六回大会の特徴を一言でいえば、一体どうなっているのでしょうか?

答五 結論的にいって、今、動労は重大な路線的転換をとげさせられようとしています。

それは、①反合闘争の完全な放棄、大胆な妥協路線。②三里塚・ジェット闘争への介入破壊路線へのエスカレート。③財政の私物化、喰いつぶし。④破産した「水本」デマ運動に替る、革マル直輸入の「新たな反謀略運動」のもちこみ。⑤そのベールが「反ファシズム統一戦線」。⑥動労型労働運動の基本路線をなげすて、「全動労問題」を革マルの御都合で清算し、日共との野合路線に無理矢理に大転換したことです。

問六 第三六回大会の五つの特徴のうち、①、②、③は従来から指摘されていたことですぐ理解できますが、残りの④と⑤はあまりにも唐突すぎで驚いてしまいます。どういう風に関連しているのですか。

答六 全く無理からぬ疑問です。この唐突な「反ファシズム……」といい「日共との野合」といいいずれもこれまでの動労の運動からは理解することはできません。その出生の秘密は実は、八月下旬になって突如としてうち出された革マルの独得の情勢認識「日本型ネオ・ファシズム論」、それにもとづく「反ファシズム統一戦線」方針が急拠直輸入されてきた方針だからです。その内容については「日刊」五三六号を参照してほしいのですが、動労の中にもちこまれたのです。

「ここに自信をもって、日本共産党をも含む、反自民、反独占のあらゆる諸潮流、諸階層に呼びかけ、『反ファシズム統一戦線』を訴えて自らもその一翼を担ってたたかい抜く」(再建デマ情報8/30付「全国大会報告」より)

しかし、ここではつきり見ておかねばならない点は、革マルは、「反対同盟をはじめ三里塚を闘う勢力や動労千葉はネオ・ファシズム勢力の一翼」「粉碎の対象」とはつきりと規定しているという事実です。

問七 彼らのピラによると「これは、社会党を強化し、総評内左派を結集する軸だ……」という意味の事を書いていますか……

答七 とんでもないペテンと利用主義です。かの「水本」デマ運動の時に「党派・イデオロギーを越えた人権よう護の運動」というのと全く同じ手口です。言葉ではどんなことを言おうとも、「本部」反動分子は、あの三里塚を中心に闘う広汎な住民・農民・労働者の統一した闘いをスパイ・挑発者のハミダシ運動ときめつけてことごとく敵対し続けている少数の集団であり、そのような集団が真面目に全体の運動の利益のために献身することありえない事はすでに歴史的に証明済みのことです。

問八 すると「全動労」問題は、どのように位置づけられてくるのですか?

答八 全く不真面目な話です。「全動労問題」の総括も全然せず、「あくまで「解体」のために統一を組むのだ」(『動力車新聞』)とメチャクチャない訳をしたり、「三年後には完全にファシズム的支配が確立する。一切の感情・イデオロギ―をこえて闘う戦線を棄かねばならない。過去の様々ないきさつがあります。しかし、もうそんな事は言っていられない。ともかく大統一行動を……」(東京地本大会での松崎委員長挨拶より)などと、「危機」だけを言っているのです。そして、「全動労問題」を単なる「感情」の「いきさつ」などといったって、全国の組合員をひきまわしているのです。